

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education



発行日 2005年 3月31日
発行所 教育システム情報学会
発行者 岡本敏雄
〒661-8520 尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内
TEL 06-4961-6507 FAX 06-4961-6508
<http://www.jsise.org/>
E-mail:secretariat@jsise.org

ニュース・レター No.134

教育システム情報学会30周年記念

全国大会のご案内



教育システム情報学のグランドデザイン

— 情報社会における知の共有 —

本年度の全国大会は、下記の要領にて石川県金沢学院大学キャンパスにて開催されます。

今回の大会は、「教育システム情報学のグランドデザイン～情報社会における知の共有～」というテーマで、高度情報社会における教育・学習環境を駆使・活用して教育成果を高めている多くの教育研究、教育実践事例を発表しあい、討論を重ねて、情報社会における知の共有はいかにあるべきかを探り、新しい教育システム情報学のグランドデザインを構築していきます。講演、パネル討論、ワークショップ、各種発表セッション、展示会を企画しております。多くのご発表、ご参加をお待ちしております。

◆開催日時 2005年8月25日(木) 10:00～2005年8月27日(土) 17:00

◆会場 金沢学院大学キャンパス
〒920-1392 石川県金沢市末町10番地

◆主催 教育システム情報学会

◆後援(予定) 文部科学省、経済産業省、総務省、石川県教育委員会、富山県教育委員会、福井県教育委員会、金沢市教育委員会、小松市教育委員会、北國新聞社、富山新聞社、福井新聞社、NHK金沢放送局、テレビ金沢、金沢ケーブルテレビネット、エフエム石川

◆協賛(予定) 日本教育工学会、電子情報通信学会、人工知能学会、情報処理学会、(財)コンピュータ教育開発センター、(財)科学技術教育協会、(社)日本教育工学振興会

次ページへつづく

◆大会日程(予定：詳細は8月上旬にご案内します)

8月25日(木)：第1日 10:00より 受付9:00開始

基調講演、ワークショップ、企画セッション、一般講演、企業展示会、ウェルカムパーティなど

8月26日(金)：特別講演、パネル討論、一般講演、ポスター/デモセッション、企業展示会、懇親会、30周年記念イベント

8月27日(土)：パネル討論、企画セッション、一般講演、ポスター/デモセッション、企業展示会

◆大会参加費

- 参加費等 7,000円 (事前申込の場合は、6,000円)

(注)参加費等には、参加費1,000円、論文集6,000円(事前申込は、5,000円)を含みます

- 論文掲載費 1,000円(論文1編につき)

企画セッション、一般講演、ポスター・デモセッションでの発表を対象とします。

- 懇親会費 6,000円 (事前申込み 5,000円)

◆発表・参加

申込み期限 発表申込み締切 2005年6月17日(金)

発表原稿提出締切 2005年7月 8日(金)

事前参加申込締切 2005年8月 5日(金)

*発表者のお申込は、別紙記載の「研究発表申込書」をご参照し、下記の全国大会ホームページから、お申し込みください。なお、4月末から全国大会ホームページで発表・参加申込み受付を開始します。

◆大会事務局 〒920-1392 金沢市末町10

金沢学院大学基礎教育機構 樋川研究室気付

教育システム情報学会 30周年記念全国大会事務局

e-mail info@jsise2005.kanazawa-gu.ac.jp

◆全国大会ホームページ <http://jsise2005.kanazawa-gu.ac.jp>

4月中旬より順次、全国大会情報や発表・参加申込み方法を掲載します。



研究発表申込書

発表形態

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 一般講演 | <input type="checkbox"/> 英語セッション |
| <input type="checkbox"/> ポスターセッション(注1) | <input type="checkbox"/> デモセッション(注1) |
| <input type="checkbox"/> 企画セッションA 組織内教育における e-Learning の新しい展開 | <input type="checkbox"/> 企画セッション B e-Learning 向け動的デジタル教材の制作と配信 |
| <input type="checkbox"/> 企画セッションC 学習モデルの再考と知的学習支援システム | <input type="checkbox"/> 企画セッション D インターネット新技術による学習環境の展開 |
| <input type="checkbox"/> 企画セッション E 高等教育における ICT 利用システム—遠隔教育、生涯教育を含む— | <input type="checkbox"/> 企画セッション F 情報科教育法の実践と評価 |

【企画セッションについて】

企画セッションは、一般の会員の皆様から発表を募集しています。奮ってご応募ください。ただし、都合によっては、一般発表に回っていただく場合もありますのでご了承ください。(注1) 他のセッションで発表されなくても単独に発表することができます。また、企画セッションや一般講演で発表される方が、同じテーマの内容をポスター/デモセッションで発表することもできます。その場合、別々にお申込みください。

発表タイトル

| |
|--|
| |
|--|

要旨(200字程度)

| |
|--|
| |
|--|

分野キーワード:

該当するものを、適切さの順に()内に番号をつけ3つまで選んでください。
該当するものがない場合は、その他に記入してください。

- | | | | | |
|---|--|---|------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> e-ラーニング | <input type="checkbox"/> 脳科学・ 生体情報 | <input type="checkbox"/> 認知・メタ認知 | <input type="checkbox"/> 協調学習 | <input type="checkbox"/> 情報倫理 |
| <input type="checkbox"/> バーチャルユ ニバーシティ | <input type="checkbox"/> コラボレーション | <input type="checkbox"/> 学習コンテンツ | <input type="checkbox"/> プログラミング教育 | <input type="checkbox"/> 知的学習支援 |
| <input type="checkbox"/> 情報教育 | <input type="checkbox"/> 教育実践システム | <input type="checkbox"/> 知的インタフェース (VRを含む) | <input type="checkbox"/> 教育方法・評価 | <input type="checkbox"/> インターネット利用 |
| <input type="checkbox"/> Web利用 | <input type="checkbox"/> 語学教育 | <input type="checkbox"/> マルチメディア利用 | <input type="checkbox"/> 教育実践・評価 | <input type="checkbox"/> 企業内教育 |
| <input type="checkbox"/> シミュレーション | <input type="checkbox"/> モバイル機器の 利用 | <input type="checkbox"/> 学習環境 | <input type="checkbox"/> その他() | |

発表者名

お名前 ふりがな 所属

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

* 連名でご発表の場合は、口頭発表者にチェックをつけてください。なお、発表者のうち 1 名は本学会会員でなければなりません。(当日までにご入会ください。)

連絡先

宛先
住所
Tel.
Fax.
e-mail

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |

* 発表申込みは、上記の申込書の内容をご参照し、下記の全国大会ホームページ(4月下旬開設)からお申し込みください。
なお、発表論文原稿は、全国大会事務局(金沢学院大学)へお送りください。

研究発表申込み

◆全国大会ホームページ <http://jsise2005.kanazawa-gu.ac.jp/> よりお申し込みください。
発表申込 〆切: 2005年6月17日(金)

発表論文提出先

〒920-1392 金沢市末町10
金沢学院大学基礎教育機構 樋川研究室 気付
教育システム情報学会 30周年記念全国大会事務局
e-mail info@jsise2005.kanazawa-gu.ac.jp
発表原稿提出 〆切: 2005年7月8日(金)

「ICT を利用した優秀教育実践コンテスト」 最優秀賞および各賞決定

教育システム情報学会
日本学術会議・渉外委員会
担当理事 伊東 幸宏

標記コンテストに多くのご参加を頂きまして、ありがとうございました。幼児教育、特殊教育、初等中等教育、高等教育、社会連携など、多様な分野での取組のご応募頂きました。その中から「実践」を重視し、下記のように各賞を決定いたしました。今回集まった取組のような現場に根ざした着実な活動が今後も発展してゆくことを期待いたしております。

| | |
|------------|-----------------------|
| 2004年8月20日 | 募集要項公表 |
| 2005年2月7日 | 応募締め切り（応募総数：35件） |
| 2月8日 | 1次審査（書類審査） 入選24件を選定 |
| 3月19日 | 2次審査（1） 大阪会場 13件 |
| 3月26日 | 2次審査（2） 東京会場 11件 |
| 3月26日 | 審査委員会 最優秀賞・優秀賞・奨励賞の選定 |



最優秀賞

- 1万人の既習者を生み出した「そのだインターネットキャンパス」の取り組み
堀田博史，山本 恒，植村唯邦，垣東弘一，小田桐良一，宇治典貞，吉崎弘一，大久保暁正，高橋朋子，福嶋昭治，五島邦治（園田学園女子大学）
原 克彦（目白大学），伊藤剛和（奈良教育大学），植野雅之（大阪電気通信大学）

優秀賞

優秀賞（技術）

- ILMS “SAMURAI” の開発と e-Learning 実践
植野真臣（長岡技術科学大学）

優秀賞（運用実践）

- 早稲田大学 e スクールの実践—スクールモデルに基づくインターネット大学—
野嶋栄一郎，浅田 匡，菊地英明，金 群，向後千春，西村昭治，松居辰則（早稲田大学）

優秀賞（社会連携）

- 子どもたちの主体的な学びを引き出す PDA（携帯情報端末）を活用した水族館学習
高田浩二（海の中道海洋生態科学館）

奨励賞

- シミュレータを中心としたマルチメディア教材による教育
須田宇宙，三井田惇郎（千葉工業大学）
- 病弱児童の「院内学級」と大学生が作る連携クラス—生きる力を育む ICT—
西堀ゆり，山本裕一（北海道大学）

◆ 2次審査の講評

2次審査の対象の取組には、大阪または東京の会場で持ち時間20分（発表15分・質疑5分）でプレゼンテーションを行って頂いた。審査員および一般聴講者は、次の5項目について5点満点で評価を行った。

- 1.システム要素技術の新規性
- 2.ICTプラットフォーム構成の工夫と新規性
- 3.運用方法の工夫と新規性
- 4.取組みの実践性・安定性
- 5.参考事例としての価値（総合的に参考になったかどうか）

ただし、審査員も一般聴講者も自分の所属組織の取組の採点は辞退することにした。採点結果は、取組および評価項目ごとに審査員平均と一般聴講者平均を算出し、さらに審査員平均と一般聴講者平均に対し7対3の重み付けをして加重平均を求め、各取組の基礎得点とした。審査委員会では、基礎得点を参考にして合議によって最優秀賞・優秀賞・奨励賞を選定した。実践性を重視し、実験段階ではなく現場で実運用がされていることを前提に、設定した各評価項目および総合評価について慎重に審議した。

最優秀賞の取組は、評価項目2と4とで最高得点を獲得しており、評価項目3と5とでも2位の得点を獲得している。審査委員会でも、長期間にわたる取組の実践性、継続性、安定性などを高く評価した。

優秀賞（技術）の取組は、評価項目1で最高得点を獲得しており、その他、評価項目5でも3位の得点をあげるなど、高く評価されていた。審査委員会でも、新しい技術を取り込みつつ安定した実践を行っていることを高く評価した。

優秀賞（運用実践）の取組は、評価項目3と5とで最高得点を獲得しており、評価項目4で2位と安定して高い評価を獲得した。審査委員会では、大規模な取組を組織的に行っている点を高く評価した。

優秀賞（社会連携）の取組は、評価項目2で2位、3で3位、5で4位という高得点を獲得している。審査委員会では、水族館と地域の小学校との連携のあり方とそこでのICT技術の無理のない活用方法を高く評価した。

奨励賞の2件のうち、「シミュレータを中心としたマルチメディア教材による教育」は、評価項目1と4とで、「病弱児童の「院内学級」と大学生が作る連携クラス」は、評価項目4と5とで高い得点を獲得していた。

◆ 審査委員

- 岡本敏雄会（電気通信大学）：委員長
磯本征雄（岐阜聖徳学園大学）
小松秀罔（NTTラーニングシステムズ）
矢野米雄（徳島大学）
伊藤紘二（東京理科大学）
伊東幸宏（静岡大学）
前迫孝憲（大阪大学）
家本 修（大阪経済大学）
浮貝雅裕（千葉工業大学）
波多野和彦（メディア教育開発センター）



VIM '05 国際学会のお知らせ

The International Conference on Knowledge Society Challenges for e-Learning

e-ラーニングに関わる国際会議 (VIM '05) が、来る 2005 年 5 月にリトアニアで開催されます。VIM は、スラブ語で Knowledge Society Challenges for e-Learning の省略したものです。バルト 3 国、ポーランド、フィンランドを中心に、ヨーロッパ各国からも参加のある国際学術会議です。e-ラーニングに関する様々なテーマをトピックとして取り上げています。詳細については、VIM '05 の Web Site へアクセスしてください。なお、今回は特に Grid Technology に関する e-Learning および e-Science の専門家の参加が多く見込まれているようです。

また、JSiSE では、VIM '05 に共催しており、会長の岡本敏雄先生も Conference の Co-Chair として運営に関わっています。皆様の積極的なご参加をお願いいたします。さらに、VIM '05 と平行しまして、日本との共同研究体制などについても、ワークショップを設け積極的に意見交換をおこなっていきます。

Web Site : <http://distance.ktu.lt/vim/>

開催日 : 2005 年 5 月 26 日～27 日

参加申請日程 : Important Date

- ・ March 15th, 2005 - Abstracts submission
- ・ April 1st, 2005 - Full Paper submission
- ・ April 25th, 2005 - Notification of acceptance
- ・ April 30th, 2005 - Author registration deadline

JSiSE 日本側担当窓口 平田謙次 (産能大学)

第7回 e ラーニング技術特別委員会シンポジウムのご案内

再掲

教育システム情報学会
e ラーニング技術特別委員会
東京電機大学エクステンションセンター後援

e ラーニングの活用を促進する実践的情報とノウハウの研究を進めている e ラーニング技術特別委員会が以下の通りシンポジウムを開催致しますのでお知らせ致します。

日時 : 2005 年 4 月 25 日 (月) 14:00～18:00

場所 : 東京電機大学 1 号館 1 7 階大会議室 神田キャンパス

http://www.dendai.ac.jp/d2_guide/access_index.html

シンポジウム テーマ「eラーニングのオープンソース」

PART 1 基調講演 14:10～15:30

「オープンソースの現状と活用ルール」

プレゼンター : 経済産業省 情報処理振興課 田代 課長代理

PART 2 シンポジウム 15:40～18:00

「オープンソースの活用体験」

モデレータ : 岩手県立大学 鈴木克明教授

パネリスト : 関西大学 冬木正彦教授

九州工業大学 西野和典助教授

慶応大学 福原美三教授

尚ご登壇頂く方のタイトルが変更になる場合があります。

資料代 : 教育システム情報学会 会員 ¥1,000

申込先 : e ラーニング技術特別委員会 委員長 小松 秀罔

komatu@hot.nttlls.co.jp

2005 年度第 1 回研究会 発表募集のお知らせ

テーマ「e ラーニング環境のデザイン／一般」および
「e ラーニングの実践報告とシステム公開デモセッション」

担当 研究会委員会
仲林 清／松居辰則

本年度第 1 回研究会は、「e ラーニング環境のデザイン／一般」、および「e ラーニングの実践報告とシステム公開デモセッション」のふたつのテーマの合同で実施いたします。e ラーニングは単なる Web による教材配信の段階から、企業や大学における複合的な教育研修メディアに変化しつつあり、多くの実践事例も報告されるようになってきています。このような流れに着目し、「e ラーニング環境のデザイン」のセッションでは、学習コンテンツ設計、インストラクショナルデザイン、品質評価などの方法論や、ツール、システム、実践環境に関する提案・構築などに関するご発表を募集いたします。また、「e ラーニングの実践報告とシステム公開デモセッション」では、実践事例の発表とデモを合わせてご発表いただける場を設け、実際の事例の知見をより深く多くの方と共有していただくことを狙いとしています。その他、教育システムに関する幅広い分野からの発表も歓迎致します。初中等教育、高等教育、企業教育などの分野から、多くの方々の発表をお待ちしております。

日 時：2005 年 6 月 3 日（金） e ラーニング環境のデザイン／一般
2005 年 6 月 4 日（土） e ラーニングの実践報告とシステム公開デモセッション

会 場：青山学院大学総合研究所 11F 19 会議室
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
<http://aml2.a2en.aoyama.ac.jp/contents7.shtml>

- 発表申込締切：2005 年 4 月 26 日（火）
- 原稿提出締切：2005 年 5 月 6 日（金）

※ 原稿は A4 用紙で 2 枚以上の 8 枚以下の偶数枚でご準備いただきますが、
パワーポイントを出力したものでも構いません。
※ 発表原稿は「研究会資料」として製本し配布されます。

■ 発表申込方法

以下を電子メールでお送り下さい。形式は任意で結構です。

- (1) 発表希望テーマの指定
e ラーニング環境のデザイン／一般および、
e ラーニングの実践報告とシステム公開デモセッション
- (2) 発表タイトル (3) 著者名・所属（登壇者に○）
- (4) 発表概要（50 文字程度） (5) 連絡先住所・氏名・電話番号・電子メールアドレス

送付先（両テーマとも）：野崎浩成（愛知教育大学）nozaki@aeu.ac.jp

■ お問い合わせ先

e ラーニング環境のデザイン／一般

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15
早稲田大学 人間科学部 人間情報科学科 松居辰則
Tel. & Fax. 04-2947-6924 E-mail: matsui-t@waseda.jp

e ラーニングの実践報告とシステム公開デモセッション

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1
愛知教育大学 教育学部 野崎浩成
TEL 0566-26-2609 FAX 0566-26-2510 E-mail: nozaki@aeu.ac.jp

〒380-8553 長野市若里 4-17-1

信州大学 大学院工学系研究科 情報工学専攻 不破 泰
TEL 026-269-5476 FAX 026-269-5495 E-mail: fuwa@cs.shinshu-u.ac.jp

2005 年度第 2 回研究会 発表募集のお知らせ

テーマ「マルチメディア教材の作成とその活用について」

担当 研究会委員会
磯本征雄／山崎初男／野崎浩成

マルチメディア技術を利用した教材開発やその活用事例について、下記の通り、研究発表を募集します。この研究会では、マルチメディアに限定することなく、教育に関連した研究を幅広く募りますので、奮ってご参加の程、宜しくお願いします。

なお、当日のプログラムなど、詳細は、決定次第、以下の URL にてお知らせする予定です。

<http://nozaki-lab.ics.aichi-edu.ac.jp/multi2005/>

【開催日】7月2日（土）9時～18時まで

【開催場所】名城大学 天白キャンパス（愛知県名古屋市）

タワー75 10階会議室 1002

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口 1-501

<http://www.meijo-u.ac.jp/guide/campus/tenpaku/index.html>

【発表申込締切】2005年5月16日（月）

【原稿提出締切】2005年6月3日（金）

原稿はA4用紙で2枚以上の8枚以下の偶数枚でお願い致します。

発表原稿は「研究会資料」として製本し配布されます。

【発表申込方法】

以下の内容を電子メールにて、下記の連絡先までお送り下さい。

- ・発表タイトル
- ・著者名・所属（登壇者に○）
- ・発表概要（50文字程度）
- ・連絡先：住所、電話番号、Email

【担当委員】

磯本征雄（岐阜聖徳大学）、山崎初夫（名城大学）、伊藤 敏（岐阜聖徳大学）、
不破 泰（信州大学）、野崎浩成（愛知教育大学）

【連絡先】

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1

愛知教育大学 教育学部 野崎浩成

TEL 0566-26-2609 FAX 0566-26-2510

E-mail: nozaki@aecc.aichi-edu.ac.jp



教育システム情報学会中国支部

2005年度 研究発表会研究発表の募集

中国支部 支部長 宮地 功

中国支部では2005年7月9日(土)に総会を開催し、その後に研究発表会を行います。
つきましては、中国支部の方はもとより、他地区の方にも参加していただきたく、広く会員の方々に教育システム情報に関連した研究についての研究発表を下記の要領で募集します。
多くの方々のご参加をお待ちしています。

日 時：2005年7月9日(土) 13:00～17:00

会 場：広島国際学院大学
〒739-0321 広島県広島市安芸区中野 6-20-1
(会場校責任者：中田美喜子)



発表申込締切：2005年6月10日(金)

発表申込方法：宮地 功 宛(miyaji@mis.ous.ac.jp)に下記の項目を記載して送ってください。

- (1)発表題名、(2)著者名(登壇者に○)、(3)所属、(4)連絡先住所、氏名、電話番号、電子メール、(5)その他、発表に関する要望、(6)中国支部懇親会への参加・不参加

原稿提出締切：2005年6月24日(金)

送付先：〒700-0005 岡山市 理大町 1-1

岡山理科大学総合情報学部情報科学科 宮地 功

原稿形式：A4用紙2～6頁。用紙の上下左右に20mm ずつの余白を取る。2段組で1頁45行、1行50文字程度とする。論文題名、英文論文題名、著者名、英文著者名、所属、英文所属、論文概要、キーワード、はしがき、本文、むすび、参考文献の順に書く。その他は、教育システム情報学会研究会原稿作成に準ずる。

* 投稿は、Email : miyaji@mis.ous.ac.jp への添付ファイルでも可です。

会員の皆様へ

平成17年度学会論文賞候補をご推薦ください。

2005年4月

今年度の論文賞の候補を推薦してください。これは、学会誌に発表された論文等の中から、優秀なものを表彰する制度（学会論文賞）です。今回対象となる推薦候補論文は、【**実践論文（実践速報含む）**】です。

なお、ご推薦いただいた論文は論文賞選定委員会において評価の査読を議論し、理事会で決定していくことになります。表彰は今年度の総会の席です。

◆推薦投票の要領

今回対象となる推薦論文は次のとおりです。

【実践論文】

Vol. 20, No. 1（2003年）から Vol. 21, No. 4（2004年）に掲載された2年間の論文。

この中から、推薦したいと思われる論文1編を投票方法に従ってご投票ください。

◆投票方法

上述した期間に掲載された**実践論文（実践速報含む）**の中から、推薦したいと思うものをメールで

1)～4)に従って「paper-award05@jsise.org」へご投票ください。

- | | |
|----------|-------------------------------------|
| 1) 推薦論文名 | 2) 掲載論文誌の Vol.20, No.1～Vol.21, No.4 |
| 3) 推薦理由 | 4) 推薦者名（会員に限る） |

◆投票締切 平成17年5月14日（土） ※ メールのみで受付けます。

事務局からのお知らせ

5月1日より教育システム情報学会事務局が 大阪経済大学に移転します。

なお、事務局宛のメールアドレスは従来通り変更はありません。

■新事務局

〒533-0015 大阪市東淀川区大隅2-2-8 大阪経済大学内

教育システム情報学会事務局 事務局長 家本 修

E-mail : secretariat@jsise.org

<http://www.jsise.org/>

教育システム情報学会英文誌 論文募集

(Vol.4, No.1, 2005年12月発行予定)

教育システム情報学会では、2002年度から年1回定期的に英文誌を発行しています。これまでに発行してきました英文誌は、質・量ともに「教育と情報通信技術」に関する世界レベルの内容となりました。このたび、Vol.4に掲載する論文を募集いたします。是非、多くの方々にご投稿いただき、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて積極的に発信していただきたいと思っております。

下記の要領に沿って、ご投稿いただきますよう、お願いいたします。

○論文種別:原著論文(Original Paper), 実践論文(Practical Paper), ショートノート(Short Note), 実践速報(Report on Practice)

○投稿締切:2005年5月16日(投稿は随時受け付けていますが、この期日までにご投稿いただいたものに関しては、Vol.4, No.1への掲載対象となります)

○投稿要件

- ・論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
- ・寄稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員である場合には投稿料に会員の価格が適用されます。寄稿者が2名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも1名が会員であれば、投稿料に会員価格が適用されます。

○原稿執筆要領:英文誌もしくは下記のURLを参照してください

(http://www.jsise.org/e_journal/CFP-IJ-JSiSE.pdf)

○投稿方法

オリジナル原稿をPDF形式にしたものを電子メールに添付してJSiSE 英文誌編集事務局(jsise-e@fest.or.jp)へ送付してください。その他のファイル形式や提出方法を希望される場合は、お問い合わせください。

○問い合わせ先

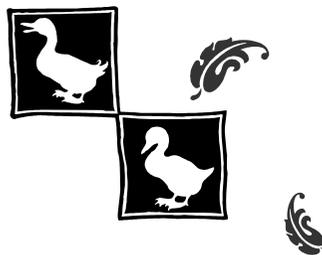
JSiSE 英文誌編集事務局

〒116-0012 東京都新宿区南元町23番地

公立共済四谷ビル5F (財)科学技術教育協会内

Tel: 03-5367-9511, Fax: 03-3357-2727

E-mail: jsise-e@fest.or.jp



国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡下さい。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

新着情報 3 件

VIM '05: The International Conference on Knowledge Society Challenges for e-Learning

開催日程：2005 年 5 月 26 日-27 日

共催：教育システム情報学会

概要応募締切：2005 年 3 月 15 日

開催地：Kaunas, Lithuania

URL：<http://distance.ktu.lt/vim/>

E-mail：vim@distance.ktu.lt

ICCE 2005: The 13th International Conference on Computers in Education

開催日程：2005 年 11 月 28-12 月 2 日

主催：Asia-Pacific Society for Computers in Education (APSCE)

論文応募締切：2005 年 4 月 29 日

開催地：Singapore

KES' 2005: 9th International Conference on Knowledge-Based & Intelligent

Information & Engineering Systems

開催日程：2005 年 9 月 14 日-16 日

論文応募締切：2005 年 3 月 25 日（延長）

開催地：Melbourne, Australia

URL：<http://www.latrobe.edu.au/kes/>

E-mail：r.khosla@latrobe.edu.au

再掲載情報 1 件

WMTE 2005: Third IEEE International Workshop on Wireless and Mobile Technologies in Education

開催日程：2005 年 11 月 28-30 日

主催：IEEE Technical Committee on Learning Technology

論文応募締切：2005 年 6 月 1 日

開催地：徳島

以下の国際会議の案内をさせていただきます。
奮ってご参加くださいますようお願いいたします。
IASTED-WBE は JSiSE も後援しております。

GATE-2005 conference web site is at:

<http://www.iasted.com/conferences/2005/aruba/cate.htm>

国際会議案内文責 松田 憲幸（和歌山大学）

E-mail：matsuda@sys.wakayama-u.ac.jp

新入会員の紹介

●新入会員（敬称略）

| | | | |
|----------------|------|----------------|---------------|
| JSiSE-A0502278 | 梶原隆之 | 放送大学大学院 | 準会員 |
| JSiSE-A0502279 | 難波道弘 | 山梨英和大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0502280 | 林田雅裕 | 日立造船情報システム株式会社 | 正会員 |
| JSiSE-A0502281 | 永當伸治 | 日立造船情報システム株式会社 | 正会員 |
| JSiSE-A0502282 | 余田義彦 | 同志社女子大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0502283 | 鈴木孝幸 | （学）幾徳学園神奈川工科大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0502284 | 松尾崇史 | 中部大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0502285 | 岡本尚子 | 佛教大学 | 準会員 |
| JSiSE-A0502286 | 田中伸代 | 川崎医療福祉大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0502287 | 萱津理佳 | 長野県短期大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0502288 | 長友幸子 | 東京学芸大学 | 準会員 |
| JSiSE-A0502289 | 小西裕太 | 北陸先端科学技術大学院大学 | 準会員 |
| JSiSE-A0502290 | 稲垣宏 | 国立豊田高専 | 正会員 |
| JSiSE-A0502291 | 梅津健志 | 東京国際大学 | 準会員 |
| JSiSE-A0502292 | 広兼道幸 | 関西大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0502293 | 高橋文徳 | 信州大学大学院 | 準会員 |
| JSiSE-IA040069 | 森下靖智 | 株式会社アイメディック | 企業・団体会員 |
| JSiSE-A0502294 | 森下靖智 | 株式会社アイメディック | 企業・団体会員からの正会員 |
| JSiSE-A0502295 | 高津 光 | 株式会社アイメディック | 企業・団体会員からの正会員 |
| JSiSE-A0502296 | 高木正則 | 創価大学大学院 | 準会員 |

(2005年4月1日)

新年度（2005年度）の会費請求をしています。

4月から新年度（2005年度）が始まりました。新年度会費を同封の請求書のとおり、ご請求をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

学会の諸活動は、会員のみなさまからの会費で単年度予算で運営しておりますので、納入にご協力をお願いいたします。また、不明な点についてはまことにお手数ですが、事務局へメールでお問い合わせくだされば幸いです。

■今回請求した会費に関する問い合わせ先

教育システム情報学会事務局

〒661-8620 尼崎市南塚口町 7-29-1

E-mail : secretariat@jsise.org

園田学園女子大学情報教育センター内

※ 同封の振込用紙をご利用ください。

第 28 回情報化学討論会

主催 日本化学会 情報化学部会

共催 日本薬学会, 日本農芸化学会, 日本分析化学会, 日本コンピュータ化学会、大阪大学大学院薬学研究科

協賛 教育システム情報学会

会期 平成 17 年 11 月 16 日 (水) ・ 11 月 17 日 (木)

会場 大阪大学コンベンションセンター(阪大吹田キャンパス, 吹田市山田丘 1-1)

<http://www.handai-kouenkai.org/convention/>

交通 <http://www.fbs.osaka-u.ac.jp/jp/maps/suita-conventionc.html>

発表申込締切 7 月 15 日 (金)

予稿原稿締切 9 月 22 日 (木)

参加登録予約申込締切 10 月 28 日 (金)



討論主題

- (1) 化学情報学 (化学論理学, 情報検索、DB, コンピュータネットワーク, CG, グラフ理論, 反応設計など)
- (2) 理論化学・計算化学 (MO, MM, MD, MC, 各種シミュレーションなど)
- (3) ケモメトリックス及びそのソフトウェア (ニューラルネットワーク, ファジィ, カオス, 遺伝的アルゴリズム, 構造物性相関, データマイニングなど)
- (4) 化学教育・学習システム
- (5) その他情報化学に関するもの (コンビナトリアル・ケミストリー, 遺伝情報、環境ホルモン情報など)

発表形式 口頭 (講演 25 分または 15 分, 討論 5 分を含む), またはポスター (構造活性相関シンポジウムと合同)

予稿原稿 A4 版用紙を使用し, 本文 (和文または英文) は 2 または 4 頁。英文要旨は半頁。

参加登録費 (構造活性相関シンポジウムにも参加できます (含要旨集))

[一般] 予約 8,000 円 (部会員 7,000 円), 当日 9,000 円 (部会員 8,000 円)

[学生] 予約 3,000 円 (部会員 2,000 円), 当日 4,000 円 (部会員 3,000 円)

要旨集前送希望の場合は郵送料 1,000 円を別途申し受けます。費用振込み後, 参加取り消しによる返金には応じられません。

懇親会 (構造活性相関シンポジウムと合同)

日時: 11 月 16 日 (水) 18:30-

場所: 千里阪急ホテル (予定)

会費: [一般] 予約 6,000 円, 当日 8,000 円 [学生] 予約 3000 円, 当日 4000 円

連絡先 〒565-0871 吹田市山田丘 1-6 大阪大学大学院薬学研究科医薬情報解析学分野 高木達也

Tel 06-6879-8254 Fax 06-6879-8250

e-mail: cicsj28@gen-info.osaka-u.ac.jp

URL: www.gen-info.osaka-u.ac.jp/cicsj28/index.html

情報技術標準化フォーラム

「eラーニングのグローバルな動向～政策・技術そして応用」

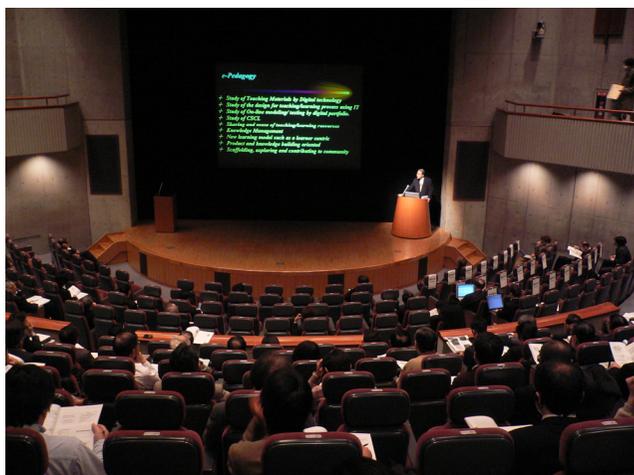
開催報告

本会・日本工業標準調査会(JISC)・情報処理学会が共催した、eラーニングの世界的な動向を検討する情報技術標準化フォーラム「eラーニングのグローバルな動向～政策・技術そして応用」が2005年3月14日(早稲田大学国際会議場)に日本、韓国、カナダ、オーストラリアなど各国から約300名が参加して開催された。

開会にあたって岡本本会会長は「学習資源の再利用と共有を基礎にした学習者中心の新しい学習モデルが必要である」と挨拶した。基調講演では、AEN(Asia e-Learning Network)の坂本昂委員長がAENのこれまでの活動を紹介しながら「eラーニング世界を結ぶ基礎になれば素晴らしい」と述べ、Jon Mason氏(education.au)は「eラーニングを一時の流行としてではなく、継続的に教育支えるインフラとするには標準化が重要である」と述べた。これに続く招待講演セッションでは、LOM、協調学習等に関する9件の発表がなされ、本会のCSC Lと支援技術委員会からも田村泰久氏(上智大学)が協調学習支援システムの現状についての調査結果の報告を行った。

なお、当日の発表資料を<http://www.itscj.ipsj.or.jp/jp/forum.html>からダウンロードすることができる。

北陸先端科学技術大学院大学
池田 満



早稲田大学国際会議場にて

UNESCO-UNEVOC/JSiSE

International Seminar 開催報告

3月17日～18日に開催されました UNESCO-UNEVOC/JSiSE International Seminarは無事成功に終わりました。本国際セミナーは、ユネスコ、ユネボック、JSiSEの共催、IEEE Computer Society, Learning Technology Committee, 文部科学省、経済産業省、日本ユネスコの後援により、開催された国際セミナーです。複雑化、知識化、国際化する社会に対応した人材開発の先端手法について、行政、企業、高等教育それぞれの先端的実践について講演者にご講演いただき、活発な議論が行われました。

講演者は、UNESCO International Center 所長 Maclean 博士、International Journal of Web based Society 等数多くの国際ジャーナルの編集委員長を行っている Kommers 教授、IEEE Committee of Advanced Learning Technology 議長の Kinshuk 教授、韓国の eラーニング第一人者 Lee 教授、国際職業訓練コンソーシアム議長 Lancaster 博士、日本からは、例えばベンチマーキングを世界で最初に開発した富士ゼロックスの研究グループ、本田技研、ブラザー、NTT レゾナント、また、本会会長 岡本教授をはじめとする日本を代表する教育学研究者、eラーニング研究者が講演しました。当日は、二日間に及ぶ国際セミナーで、すべて英語で行われたにもかかわらず、69名の参加者が参加し、通常の国際会議とは異なり、講演者だけでなく、すべての参加者が議論に参加できるような形で進められ、有意義な議論と問題共有が行われていました。

また、最後になりましたが、本セミナーを開くにあたり、早稲田大学永岡教授をはじめとする本会国際委員会の Organizing Committee のメンバー、また、長岡技術科学大学の Local Committee の皆様の多大なるご尽力に感謝申し上げます。

文責 植野真臣 (長岡技術科学大学)



当日の会場風景

2004 年度第 5 回研究会の報告

テーマ: 高等教育における ICT 利用システム - 遠隔教育、生涯教育を含む

担当: 研究会委員会
黒瀬 能幸/渡辺 成良

2005 年 1 月 22 日に電気通信大学において表記のテーマの研究会を開催しました。発表 12 件、参加者は 50 数名でした。学習支援に関する研究が 8 件、e-ラーニング・教材オーサリングに関する研究が 3 件、遠隔教育が 1 件となり、発表時間 20 分、質疑応答 10 分が足りないくらい、内容のある研究成果を集めることができました。

学習支援では、伝統的な学習者モデル構築と学習者支援に対して、Web 学習環境下での ICT 利用の観点から研究の進展が見られました。IT と ICT の違いを意識して、学習内容を正確に表現する、教材を正しく理解させる、他者との協調学習を促進するために、学習者とシステム、学習者と学習者とのコミュニケーションにおいて、コンピュータやネットワークの能力を高度に活用する研究が活発化していることが伺えました。研究会終了後の懇親会には 12 名の参加を得て、自己紹介を交えながらより深い研究交流の場を持つことができました。

今回はテーマに沿った内容の研究者が集まっていただけだと思います。さらに、東京地区以外からの御発表が 5 件あり、慶應大学と東京電機大学からも積極的に参加いただきました。テーマにもよるとは思いますが、発表会場の近辺に偏らずに発表に来てくださったということで、研究会への関心が高まってきたことを実感しました。



- ・開催日: 2005 年 1 月 22 日
- ・場所: 電気通信大学

1. 学習状況ナビゲーションを添加した議論による Web 学習支援システムの提案

田 辰元, 渡辺成良 (電気通信大学)

e-Learning の学習環境には大きく個別学習と協調学習がある。本研究では個別に Web 教材を学習してもいる学習者が、他の学習者との議論や対話通して協調学習を行うことにより、個別学習で発生した問題を解決して個別学習を順調に続けることを可能にする、学習支援システムを提案する。また議論グループの形成を混乱させないため、教材知識ごとに協調グループを作成することを提案する。さらに、コンピュータを利用して各学習者の学習履歴をデータベースに記録し、整理したうえ、各学習者の学習進度と各協調グループの状況が表現できる「学習状況ナビゲーション」を作成する。

この提案システムを用いると、コンピュータを利用して Web 教材を独習している学習者が、自分が欲するタイミングで個別学習から協調学習へ移動できるため、個別学習で発生した問題の解決が容易になると期待できる。また、各学習者に自己の学習進度と他者のそれとの比較結果を示すことにより、学習者間の競合心理を起こさせ、学習対象の修得を促進することも期待できる。

2. 問題解決学習支援システム CAFEKS における問題解決支援の実装

三原栄輔, 長谷川啓行, 金子浩史, 嶋原邦夫,
長谷川健治, 山地典顕, 藤井雅弘, 伊丹 誠,
伊藤紘二 (東京理科大学)

我々は、「思考とコミュニケーションのための道具」としてのコンピュータを用いた協調学習環境として、学習者グループの主体約活動を重視し、問題解決作業を支援する環境、開発している。

CAFEKS は、自然科学や工学の分野の問題における解決方略を発見して組み立てる能力の開発に焦点を当て、視覚的にプランニング、問題記述・解決実行、例題検索、ならびに対話とリフレクションを支援する環境を提供する。システムは、問題解決にとって汎用な基盤としての *cafeks* パッケージと、ある分野に特化した分野パッケージで構成される。現在、分野パッケージとして電気回路分野の問題解決を扱うための *electric-circuit* パッケージを試作している。プログラミング言語として、環境開発には *Java*、論理的解析および正誤判定には *Prolog* と *Mathematica* を用いる。本稿では、問題解決環境を構成する上述の 4 つの支援の実装について報告する。

3. リソースへのアノテーションに基づく概念関連マップを用いた知識形成支援

石丸 豊, 石原正樹, 高崎晃一, 掛川淳一, 藤井雅弘, 伊丹 誠, 伊藤紘二 (東京理科大学)

近年、教育現場でコンピュータが普及にしている。これらは情報の記述、検索、蓄積、比較を支援するために有効な手段となっている。しかし、一般に知識のリソースは様々なコンテキストの制約を受けた断片として散在している。系統立てて編集されているように思われるテキストでも、学習者が必要としている観点からは、あちらこちらに分散している情報を辿って読み比べないと役立つ情報は縛られない。そこで、本研究では知識リソースの情報に対して、キーワードリストから複数を組み合わせ、リソースにアノテーションを行い、あるいは行わせ、それらキーワード間の共起性に基づく関連性をアノテーションマップに実現することで、知識形成のための情報の蓄積、検索、比較を支援するシステムを目指している。複数のキーワードを組み合わせ、リソースにアノテーションを行なうことで、表層上では散在しているが意味的には関連を持った情報群を選び集めることが可能となり、それらの比較により学習者の知識形成を促進する。

4. 学習者同士のコミュニケーションを通じた多読を支援する Web アプリケーションの開発

川村昌弘, 水野邦太郎 (慶應義塾大学)

学習者同士のコミュニケーションを重視した多読教育を実現する Web アプリケーションを提案する。この Web アプリケーションでは、学習者がそれぞれ自分のペースで読書を進め、学んでいくだけでなく、学習者同士がコミュニケーションすることで互いに学んでいくという協調学習の実現を目的としている。

外国語教育への IC で (*Information and Communication Technology*) 利用事例は多いが、コンピュータの画面と学習者が一対一で接するのみという個人学習に留まっているものが多い。慶応技術大学と上智大学で実施されている IRC (*Interactive Reading Community*) プログラムでは、学習者が自分のペースで好きな本を選んで読むだけでなく、その書評を Web 上の BBS 掲示板) に登校することで、学習者同士が本について語り合うという協調学習を目指している。このような教育を発現する為には、ただ単に BBS を用意するだけではなく、学習者自身の学習履歴の振り返りを可能にしたり、より読書意欲を向土させるような工夫を盛り込んだシステムを構築する必要がある。筆者らはこれらを実現する Web アプリケーションを構築し、自分のペースで学習が進められ、なおかつ学習者同士のコミュニケーションを基にした協調学習教育を実現した。

5. 専門重視の相互作用型 e-ラーニング実践

岡本敏雄, 塚原 渉, 関 一也 (電気通信大学)

本学では、社会人学生や経済的理由からアルバイトに時間を割かれる学生から、e-ラーニングへの要望が強い。また、学部・大学院科目を担当する教授からも、基礎学力低下への対策として、e-ラーニングによる個別の指導への期待が高まっている。これらの要望に応えるモデルとして、*Leaning Ecological Model* がある。このモデルは学習形態、学習内容、学習目標を個々の e-ラーニングにおいて選択できることが特徴である。*RAPSODY* は、コンテンツの流通性への配慮、学習履歴の管理を基本機能として、LOM の利用、系列化機能、レポート分析機能などが実装されてきた。これら各機能の利点を活用し、個々の学生と効果的な相互作用を行なうためには、学習履歴情

報の活用が重要である。そのためのしくみとして LMS と連携可能なデジタルポートフォリオ（電子カルテ）を構築する。なお、この一連の取組みは平成 16 年度に採択された、現代的教育ニーズ取組支援プログラム（平成 18 年度まで）において行なわれるものである。

6. 統合型漢字学習環境 WWW-KALIST における学習者モデルの共有手法

林 敏浩（香川大学），樋口朋美，林田行雄（佐賀大学）

我々は、種々の漢字学習・教育システムや電子辞書システムを統合し、WWW 上で利用可能な統合型漢字学習環境 WWW-KALIST を開発している。個々の学習・教育システムが学習者モデルを共有し参照することにより、WWW-KALIST 内にある複数の学習・強雨行くシステムが連携して漢字学習環境を提供できる。これは学習者側から見ると、WWW-KALIST で提供される異なる種々の漢字 CAI システムを利用しても一貫性のある漢字学習ができることになる。本報告では WWW-KALIST において複数の学習・教育システムが共有可能な学習者モデル（共有学習者モデル）の概要、テストベッドによる設計の検討について述べる。

7. 教材ウェブサービス共有のためのメタデータとその探索手法

越智洋司（近畿大学），矢野米雄（徳島大学）

我々は、ウェブサービス化した教材モジュールに対して、共有・探索を支援するレジストリ環境の開発を行なっている。教材モジュールの探索には、インデックスやメタデータを付加する必要がある。本稿では、SCORM 等の標準化技術で定義されている教育用メタデータとウェブサービス記述言語（WSDL）をもとに、それらを統合したメタデータと探索手法について述べる。

8. 競合的情報共有アプローチによる Web 教材オーサリングシステム

袁 飛，光原弘幸，金西計英，矢野米雄（徳島大学）

Web-based education has been popularized in school, company training, and life-long learning. In this context, web education material with high reusability should be created. We think that the reusability of educational material consists of its contents, and we focus on how to heighten this reusability. Our proposal is competitive information sharing approach, which allows authors to not only create and share the contents of web education material, but also edit the contents without other authors' approval. This approach aims at facilitating contents refinement by giving the authors a trigger for discussion about the edited contents. As contents refinement is repeated in this way, the content reliability will be heightened. On the other hand, the consistency will be heightened by means of information unification support and the use of fixed user interface. Based on this approach, we developed the prototype of a web-based authoring system.

9. 短時間追加講義を含めた遠隔協調学習の方法 ディリムラット ティリワルディ，高橋稔哉，高田昭伸，小泉寿男（東京電機大学）

本稿では、短時間講義を含めた遠隔協調学習法試行について述べる。本方式では教師は先ず、遠隔地の学習者に協調学習のテーマを送信し説明を行う。次に、学習者はインターネット上の会議ソフトウェアを使って、協調学習を開始する。教師は協調学習の中の質問事項の回答をまとめて、短時間追加講義を挿入する。さらに学習者の理解度をリアルタイムで把握して講義内容に反映する。学習者に送信する教材は、あらかじめ学習者側に送信しておいた教材要素の編集コマンドであるため、低速回線の環境でも使用できる。本稿では、本方式を海外の砂漠周辺地区環境における遠隔協調学習の試行を想定し、その環境イメージを学内に模擬設定して評価を行った結果を述べる。

10. プログラミング言語学習を意識させないアルゴリズム作成・テスト環境の構築

新村晃示, 鈴木浩之, 稲垣文雄, 伊藤大輔,
小西達裕, 伊東幸宏 (静岡大学)

従来、アルゴリズム学習は、プログラミング言語学習と一体となっていて行われることが多かったがこのやり方では学習者はプログラミング言語の構文に注意を奪われ、アルゴリズムの記述に集中することができない。そこで本研究では、プログラミング言語知識を必要としないアルゴリズム学習の支援のために、図的アルゴリズム表現を用いるアルゴリズムエディタと、記述されたアルゴリズムを実行・テストできる機構を構築する。本稿では、システムは大学授業などへの利用を想定し、多数の学生がブラウザベースで使用可能である。本稿ではシステムの基本構成と実装、ならびにシステムの実運用の準備のために行った予備実験について報告する。

11. 学習用 Guided Tour の作成と演出

柏原昭博, 栗山洋平 (電気通信大学), 長谷川忍 (北陸先端科学技術大学院大学)

Web コンテンツの学習における先行オーガナイザーとして、Guided Tour を作成・演出する手法を提案する。本研究では、学びの要所となる Web ページとページ間の意味的なリンク関係をつアー構造と呼び、これを Web コンテンツからオーサリングする手法を検討する。また、より効果的な先行オーガナイザーとして機能するように、ツアー構造にしたがって Guided Tour を演出する方法を検討する。

12. 手話学習支援のための動作解析法

田中一基, 森 基, 中村洋輔, 黒瀬能幸 (近畿大学)

手話学習支援を目的とし、学習者の手許の誤り動作を検出する動作解析法について述べる。提案する手法では、カラー指サックとリストバンドを装着した状態で行った手話動作をカラートラッキングする。これにより、手指の位置のロバストな抽出と動作特徴解析が可能となる。また、文字列照合アルゴリズムを用いて、標準動作と学習者動

作の照合を行う手法を提案する。これにより、学習者の欠落動作と不要な動作をリアルタイムに検出することができ、この練果のフィードバックが可能となる。



◆◇ 研究報告書のお求めは ◇◆

研究報告書購入ご希望の方は、(株)メディ・イシュ學術情報部へお問合せください。

TEL (03-5805-1901), FAX (03-5805-1092)

E メール (ysato@medissue.co.jp) でお申し込みください。1部 1,300円 (送料共) です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読 (購読料は送料込みで年間 4,000円) をご希望の方は JSiSE 事務局 TEL (06-4961-6507), E メール (secretariat@jsise.org) までご連絡ください (年間 6 回)。この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします (教育システム情報学会研究会委員会担当/伊藤紘二)。

JSiSE 今後の予定

2005年

| 日付 | 曜日 | 予 定 | 時 間 | 場 所 |
|---------------------|-------------------|---|----------------------------|----------------|
| 4月23日 | Sat | 第108回 学会誌編集委員会 | 13:00~16:30 | 新高輪プリンスホテル |
| 4月25日 | Mon | 第7回e-ラーニング技術特別委員会シンポジウム | 14:00~18:00 | 東京電機大学 |
| 5月1日 | Sun | JSiSE事務局 大阪経済大学へ移転 | | |
| 5月21日 | Sat | 大会企画委員会 第103回 理事会・評議会 | 13:00~15:00 15:00~17:00 | |
| 5月26日 ∩ 5月27日 | Thu Fri | VIM '05 国際学会 | | リトアニア |
| 6月3日 ∩ 6月4日 | Fri Sat | 第1回 研究会 a) e-learning環境のデザイン/一般 第1回 研究会 b) e-learningの実践報告とシステム公開デモセッション | | 青山学院大学総合研究所 |
| 6月17日 | Fri | 企画委員会シンポジウム -大学教育の多様化とe-ラーニングの活用- | | 早稲田大学 国際会議場 |
| 6月17日 | Fri | 第30回 全国大会発表申込締切 | | |
| 7月2日 | Sat | 第2回 研究会 -マルチメディア教材の作成とその活用について- | 9:00~18:00 | 名城大学 |
| 7月8日 | Fri | 第30回 全国大会原稿提出締切 | | |
| 8月5日 | Fri | 第30回 全国大会事前参加申込締切 | | |
| 8月25日 ∩ 8月27日 | Thu Fri Sat | 第30回 全国大会 | | 金沢学院大学 |
| 9月28日 ∩ 9月30日 | Wed Thu Fri | 第2回 日独ワークショップ | | 上智大学(東京・四谷) |
| 9月下旬 | | 第3回 研究会 -先進的学習支援- | | 広島地区 |
| 11月中 | | 第4回 研究会 -インターネット新技術による学習環境の展開- | | 近畿大学 (東大阪) |

2006年

| 日付 | 曜日 | 予 定 | 時 間 | 場 所 |
|-----|----|---------------------------|-----|------|
| 1月中 | | 第5回 研究会 -教育実践システムと評価- | | 拓殖大学 |
| 3月中 | | 第6回 研究会 -情報科教育法の実践と評価- | | 東京 |

* なお、予定の追加・日時・場所等の変更がある場合があります。

企業・団体 会員 紹介

JSiSE 会員は、一般会員・準会員・特殊会員・名誉会員はもとより、企業・団体会員の方々の支えで運営をしています。

2005 年 4 月 15 日現在、企業・団体会員様は、25 団体ご入会いただいております。JSiSE 学会全国大会や研究会などで、企業展示と広告で、幅広いご協力をいただいております。

- | | |
|--|----------------------|
| ■ 日本データパシフィック株式会社 | ■ 富士通幕張システムラボラトリー |
| ■ 富士通サポート&サービス株式会社 (トレーニング推進部研修部) | ■ 株式会社アイスリーラボ |
| ■ 日本ユニシス・ラーニング株式会社 (e-Learning 事業推進部) | ■ 株式会社ウェブクラス |
| ■ 東芝エンジニアリング株式会社 (IT & マルチメディアデザインセンター) | ■ 株式会社エミットジャパン |
| ■ 株式会社オリオンシステムズ | ■ 日本アイビルソフト株式会社 |
| ■ 株式会社アンビリカス | ■ 株式会社両備システムズ |
| ■ 徳島県立二十一世紀館 | ■ 株式会社ネットマン |
| ■ 株式会社エヌ・ティ・ティ・エックス | ■ サイバーリンク株式会社 |
| ■ ネットワンシステムズ株式会社 | ■ 富士コンピュータ販売株式会社 |
| ■ 金沢学院大学 | ■ 実教出版株式会社 |
| ■ コナミ株式会社 | ■ 株式会社アイメディアック |
| ■ 株式会社大塚商会 | ■ 株式会社イーजीースコンサルティング |
| ■ 株式会社エフ・シー・マネジメント | ■ 株式会社ライトウェブ |



正会員・準会員

- ◆ 2005 年 4 月～6 月の期間にお申しいただくと、2005 年の年会費が 3 割引・入会金無料

企業・団体会員

- ◆ 2005 年 3 月～6 月の期間にお申しいただくと、2005 年の年会費が半額・入会金無料

(注) 維持会員の名称が企業・団体会員となり、一口につき正会員を 2 名まで登録できるようになりました。